

平成31年3月26日

独立行政法人家畜改良センター
理事長 入江 正和 殿

独立行政法人家畜改良センターにおける動物実験実施状況等に係る自己点検・評価
に対する検証結果について

平成31年3月20日に開催した動物実験実施状況等に関する自己点検・評価に対する検証に係る会議において、独立行政法人家畜改良センターにおける動物実験実施状況等に係る自己点検・評価（平成29年度分）について検証を行いましたので、結果を下記のとおり報告します。

麻布大学 獣医学部
教 授 柏崎 直巳
(国研)農研機構 生物機能利用研究部門
動物機能利用研究領域長 下司 雅也

記

動物実験の実施については、昨年度の検証結果における指摘事項に対応して改善がなされており良好に運営されているが、平成29年度の実施状況等においては以下のとおり改善すべき点がある。

1 「1. 規程」について

「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」においては、管理者、実験動物管理者、実験者、飼養者等が用語として使われている。次回規程改正時には用語の統一を検討すること。

2 「2. 動物実験委員会」について

動物実験委員会の構成は、①動物実験等に関して優れた識見を有する者、②実験動物に関して優れた識見を有する者、③その他学識経験を有する者を含むことが求められている。現規程では、役職指定とともに必要に応じて動物実験等に関して優れた見識を有する外部の者を委員として任命できることになっており、各年度毎に各委員がどの項目に該当するか（どれかひとつ）を明示すること。

また、公益社団法人日本実験動物学会が開催している実験動物管理者等研修会（2月頃開催）等の受講による情報収集等にも努めること。

以上